

牛頭山弘福寺



黄檗宗第二代木庵性瑠禪師の弟子鐵牛禪師が、葛飾郡須田村香盛島という僻村にあった香積山弘福寺の堂宇を延宝元年（一六七三）、村の有力者たちの計らいで、黄檗宗の寺として葛西一族の城址に寺領をうけ移し、現在に至っている。

現存の伽藍は、昭和八年に再建されたもので、本堂、山門、鐘楼などは、禪宗の中でも最も中国に近い宗派である黄檗宗特有の唐風結構で、特に本堂両翼にある円窓、堂前の月台、処々の柱に掛かる聯額等、他の寺院建築に余り例を見ない特異なものです。

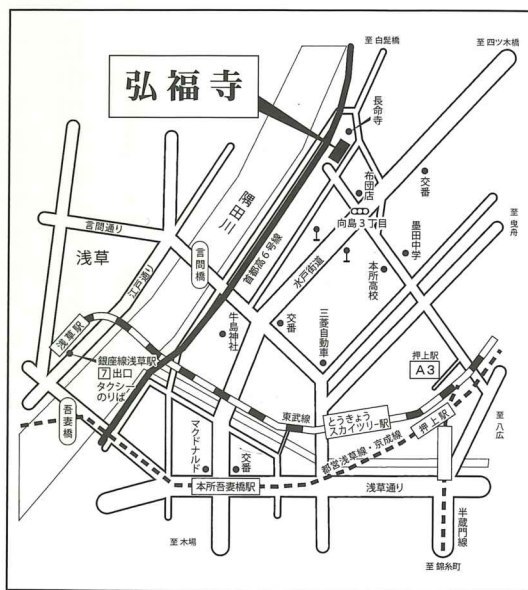
勝海舟翁参禅の旧跡

幕末の元勲勝海舟（一八二三～一八九九）が江戸島田道場において剣道に励んでいた若い頃、師の勧めで當寺に通い、数年間大勢の雲水と共に参禅しておりました。後年、その劍禅一致の修行は幕末の世情波荒き時にあつても「春風面を払つて去るの心地」を開く機縁になったと翁が自ら語られた記録『氷川清話』の中で述懐されています。

當寺の記録は関東大震災の折焼失しており、残念乍ら参禅録等の記録は残存せず『氷川清話』にてその様子を伺うのみであります。

黄檗宗 弘福寺

東京都墨田区向島 5-3-2
TEL 03-3622-4889



【交通】

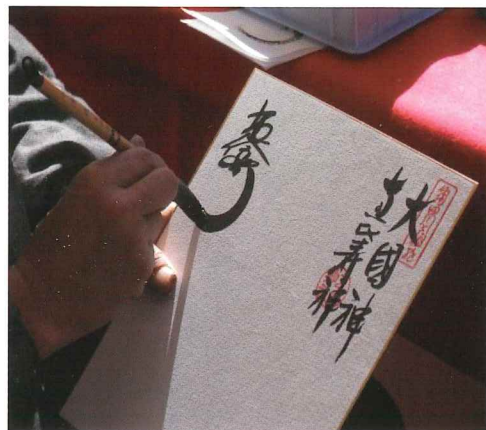
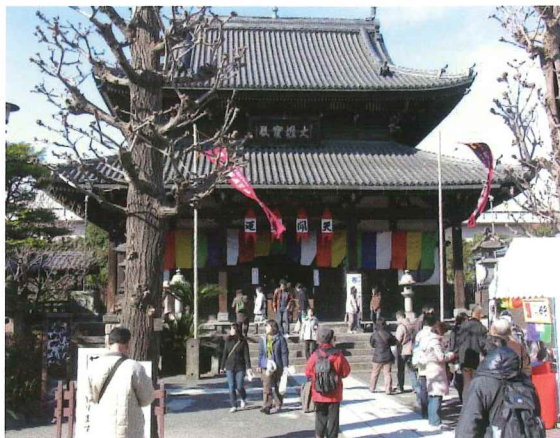
最寄り駅 京成線・都営浅草線・半蔵門線 押上駅A3出口（徒歩約15分）
都バス（草39）上野松坂屋前～浅草寿町～金町駅行 向島2丁目下車



境内右手に風外和尚禪師（寛永年中の人）自刻の父母の石像があります。風外禪師は相州真鶴山中の一洞穴で求道生活をしていましたが、自ら刻んだ父母の像に、朝夕の孝養を怠らなかつたといわれています。その後小田原城主の当山開基稲葉正則公が、風外和尚の思情に胸打たれて、江戸下屋敷にて供養をしておりましたが、同公の転封に伴い、菩提所である弘福寺に祀らしめたものです。

風外和尚の「風の外」の文字より風邪除けの御利益があるうと民間信仰を集めております。人呼んで「咳の爺婆尊」と称し、口中に病のあるものは爺に、咳をやむものは婆に祈願し、全快の折り、煎り豆に番茶を添え供養する習わしが伝わっています。

参詣者で賑う境内と本堂



布袋尊のご朱印
(隅田川七福神の寄書)

爺婆尊参詣土産の「せき止め飴」



名前を手書きした柘植の木札守

隅田川七福神と布袋尊



隅田川七福神の一つ、布袋尊をお祀りしております。
布袋尊(布袋和尚)は中国唐時代の実在の禅僧でその名を契此
といい、長汀子とも号しました。小軀・大腹で、常に一杖に
布囊を荷つて脱俗の生活をしていたと云われて居ります。
その超然とした姿に親しみ、また吉凶を予断することに優れ
ていたので布袋師とも称していた。
呵々大笑の相は「笑う門には福来たる」の意に随つてその
福德円満の相が喜ばれ、我が国でも室町時代末期以降七福神
の一つに数えられたと伝えられています。
新春の七福神詣には多くの参詣者で賑わいます。



山門



本尊釈迦如来坐像
開山鐵牛禅師坐像
(松雲作)



鐘楼堂

梵鐘は井伊玉心院大禪尼喜捨

